

第178回大阪市外郭団体評価委員会

令和3年6月30日

開会 午後1時30分

【小山法人担当課長】 定刻になりましたので、第178回大阪市外郭団体評価委員会を始めさせていただきます。

私は、本委員会の事務局を務めております総務局行政部法人担当課長の小山でございます。

それでは、議題に入りたいと思いますので、以後の議事進行につきまして、野村委員長をお願いいたします。

野村委員長、よろしくをお願いいたします。

【野村委員長】 本日は、委員全員にご出席いただき、大阪市外郭団体評価委員会規則第6条第2項により、会議が有効に成立しております。

本日の議題、1、2の外郭団体2団体の中期目標及び中期計画の変更について、3、4の外郭団体2団体の中期計画の作成について、及び5、6の外郭団体2団体の令和3年度事業経営評価に係る指標・目標の設定については公開で、7の大阪市の監理対象団体における大阪市退職者の採用等に関する指針を定める規程に基づく役員公募選考結果について、8の監理対象団体の本市退職者である役員等の個人情報の取扱いについては、いずれも法人情報及び審議検討情報ですので非公開で行います。

それでは、最初の議題について、事務局からご説明をお願いします。

【小山法人担当課長】 ご説明いたします。

教育委員会事務局におきまして所管いたします外郭団体である公益財団法人大阪国際平和センターが達成すべき中期目標を変更するに当たりまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例施行要綱に基づき諮問いたしますとともに、本中期目標を変更することを前提といたしまして公益財団法人大阪国際平和センターにおきまして中期計画が変更され、所管所属からその内容について報告がありましたので、同要綱に基づき報告をいたします。

なお、同要綱に基づく総務局長の意見はありませんので、よろしくをお願いいたします。

また、本中期計画におきまして事業経営評価に当たっての指標及び目標が定められておりますので、大阪市外郭団体の事業経営の評価等に関する指針を定める規程に基づく指標

及び目標の設定につきましても、併せて報告をいたします。

内容につきましては所管所属よりご説明させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

【野村委員長】 それでは、大阪国際平和センターの中期目標及び中期計画の変更について、所管所属からご説明をお願いします。

【教育委員会事務局】 教育委員会事務局生涯学習部長の飯田でございます。

大阪国際平和センターの中期目標、中期計画の変更についてご説明をさせていただきます。

大阪国際平和センターは、大阪空襲の犠牲者を追悼するとともに、空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報及び資料の収集、保存、展示等を通じて戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み、もって世界平和に貢献することを目的といたしまして大阪府及び大阪市の出資により設立された団体でございまして、1991年に開館し、今年で30周年を迎えます。なお、来館者の約6割は小中学生が占めているという施設でございます。

それでは、まず中期目標の変更につきまして、外郭団体評価委員会資料の諮問書をめぐっていただきまして、1ページの4の(3)をご覧くださいませでしょうか。

1つ目の指標でございますところの、大阪市立小学校全校に対する来館率につきましては、もともと令和3年、53%以上を目標としておりましたけれども、これを令和3年、31%以上と変更させていただきたく存じます。

実は、昨年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休館等の影響がございまして、中期目標の変更をさせていただいております。その際、令和4年に当初の目標、85%以上に回復させることを目指しまして、令和3年の目標数値として令和2年と令和4年の目標値のほぼ中間値の53%というのを設定させていただいたところでございます。

しかしながら、今年度も大阪国際平和センターにおきましては新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、4月25日から6月20日まで約2か月間、臨時休館を行いました。また、再開後も大阪市立小中学校では7月20日までは校外活動を中止し、延期するということになっております。

また一方で、依然として変異株など感染再拡大の危険要素はありますものの、7月21日以降は昨年並みの来館が見込まれると想定しておりまして、昨年度の実績値が29%でございましたので、これよりやや高い31%以上を目標値として設定させていただきたいと考え

ております。令和2年は12月にレッドステージ移行によりまして、再び校外活動が中止・延期とされたということがございましたけれども、これが今年度はないものと見込みまして、やや高く設定させていただいたところでございます。

なお、2つ目の中学校の来館率につきましては、コロナの影響を鑑み、令和2年の目標値を4%以上としていたところでございますけれども、実績値といたしましては11%でございましたので、令和3年の目標値は当初の目標どおり15%ということで、変更をいたしておりません。

中期目標の変更につきましては以上でございます。

続きまして、当センターが変更いたしました中期計画について、報告書に添付しております中期計画の概要に基づいてご説明をさせていただきます。報告書を1枚めくっていただきまして、横置き資料になっておるかと思っておりますけれども、こちらをご覧ください。

中ほどの3、外郭団体の事業経営の具体的な内容の右側の欄でございますが、下から3行目、先ほど申し上げましたとおり、令和3年度におきましても臨時休館を行ったことから、「令和3年度も同様な状況であるが」という追記がされておるところでございます。

次に、4の中期目標・計画（期間）における外郭団体の各事業年度の事業経営についての目標につきましては、中期計画におきましても中期目標と同様の指標を設定されております。今回、ただいま説明いたしました中期目標の変更を前提といたしまして、指標Ⅰ、大阪市立小学校全校に対する来館率の令和3年の目標値を31%に変更されているところでございます。

次のページをご覧ください。5の事業経営評価等に関する指針において中期計画に定めることとした各事業年度の財務運営についての目標につきましては、いずれも下方修正をされております。

指標Ⅰ、平和寄附金収入の確保につきましては、財団の自主財源確保の経営努力を表す指標となっておりますけれども、当センターでは企画事業等の際に参加者の方に広く寄附を呼びかけておられます。令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による企画事業等の中止、あるいは規模の縮小などが想定されておりまして、平和寄附金を集めることがなかなか困難な状況が予想されます。そこで、「令和3年度も依然として状況が厳しいが」と文章を追記するとともに、また令和3年度の目標値につきましても令和2年度と4年度の目標値の中間値90万5千円としておりましたところですが、令和2年度の実績値61万9千円よりもやや高い金額の63万6千円に変更されているところでございま

す。

指標のⅡ、入館者1人当たりの事業費の抑制につきましては、財団の運営コスト削減の努力を客観的に示すものとして、府・市の運営補助金額を入館者数で除した数字を用いております。分母となります入館者数が令和3年度も大幅に減少することが予想されますことから、令和3年度の府・市の運営補助金額を令和3年度の入館目標値で除しました金額、これに変更をさせていただいているところでございます。

6の所管所属の見解でございますけれども、次ページ以降の中期計画において定められております各種指標は、中期目標に掲げていないものも含まれてはおりますけれども、中期目標を達成するために必要な指標であると考えております。

また、今回の変更につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が昨年度から引き続けているということによるものでございまして、昨年と同様に、小中学校の校外学習の減少、あるいは入館者数の大幅な減少、これが見込まれますために財務運営についての目標値が一時的に下がることはやむを得ないことと考えております。そのため、本文中、下から4行目になりますけれども、「令和3年度」という追記をさせていただいております。

大変厳しい状況ではございますけれども、感染防止策を講じた上で小中学校等への来館の働きかけを引き続き行いますとともに、講堂や会議室といった施設の利用促進、また平和資料の貸出しなど、積極的な取組を進めることによりまして入館者数の回復を図り、目標を達成できるように努めていただきたいと考えております。

所管局からの説明は以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【野村委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方からご意見、ご質問などありましたらお願いします。

【堀野委員】 それでは、委員の堀野から質問させていただきます。

目標についてなんですけれども、2点ございまして、まず来館率というものの考え方、それから学習到達度の考え方を教えていただきたいのですが、これは小学校の数を分母として、分子は来館した学校の数ということで、学校の生徒数ではないということになるということでしょうか。

【教育委員会事務局】 はい、結構です。学校数でございます。

【堀野委員】 学習到達度というのも、同様に学校単位のアンケートということで、実際に学習をした学生のアンケートというわけではなくてという、同じ考え方でよろしいで

すか。

【教育委員会事務局】 さようでございます。学校単位のアンケートでございます。

【堀野委員】 ありがとうございます。

学習到達度とは関係ないのかもしれないですが、来館率のところ令和2年が18%というところで、令和4年以降が85%ということですが、これ、先ほど伺うと、必ずしも実績値というわけでもないようなお話だったように伺ったので、これは、従前の経緯を存じ上げなくて恐縮ですが、そもそも18%以上とか、今回修正のあった31という、この数字はどこから算出されているのでしょうか。

【教育委員会事務局】 お答えします。

もともとコロナ禍がなかった時代のことをまず申し上げますと、令和元年の来館率、小学校は85.5%、それまでの5年間で80%ぐらいから徐々に微増をしてきたという傾向がございました。中学校については25%前後がこれまでの実績ということになります。

今回の目標の設定でございますけれども、四半期ごとに分けまして見込みを想定しております。1月から3月、4月から6月は、もう実績値が出ておりますのでその値、7月から9月は、令和2年並みの学校数が来るであろうと考えております。また、10月から12月は少し回復が見込めるのではないかとということで、小学校においては5校程度増があるだろうと考えまして、全校数との割合で出させていただいたものでございます。

【堀野委員】 実績と、そうやって分析されているということであれば理解できました。ありがとうございます。

【佐藤委員】 委員の佐藤です。よろしくお願いたします。

目標値をお聞きすると、過去の実績値を維持するというようなお考えと理解したんですけれども、今この施設で全体としての稼働率はどんなイメージなのか。ぴったりじゃなくても良いですけど、実績でこういう上限とお考えということであれば、今って85とか25来られたら、割と満杯というようなものなのか、施設として来館される方をもっと集客できる余地があるのかという、そこの全体的なイメージを教えてくださいませんか。

【教育委員会事務局】 生涯学習担当課長の大多と申します。

施設自体につきましては、当然博物館みたいな施設と思っていただいたら結構かと思うんですけど、当然余裕がございますので、これから来館する学校を増やしていける余地は十分あるのかなと思っております。

【佐藤委員】 今回の変更項目ではないかと思うんですけど、実績を目標にされて

いるので目標としてはそれほど、一般的に目標って少し高いものをイメージしますので、今後また検討されることがあるのであれば、例えば中学を25にされていますけど、もっととか、一般の方であるとか、そういうふうなことをされたら良いのかなと、ちょっと感想ですけども、そういうふうに思いました。

あと、もう1点お聞きしたいのが、1人当たりの事業費の計算のところですけども、コロナ禍で入場者というか来館者が減っているんで、単価当たりが増えるというのは理解できるんですけど、全体としての事業費自体、それを抑制される何か施策というか、どういうふうな活動をされているのかを教えてくださいませんか。1人当たりじゃなくて、例えば人件費であるとか経費であるとか、そういう全体的な抑制。

【教育委員会事務局】 細かいところは聞いてないんですけども、当然毎年の事業については見直した上で削減していくという前提の下に、この計画の数字が出ているとお聞きしていますので、どういう取組を入れていくというのは詳細を聞いておりませんので、よろしくをお願いします。

【佐藤委員】 コロナ禍なのであまりたくさん来られないと思いますし、コロナが収まったら元に戻れば良いですけど、まだ後、引きずるかもしれませんので、コスト低減をどれだけしているか、そういうふうな見方で確認していかれても良いかなと思いました。

【水上委員】 委員の水上です。よろしくお願いたします。

私も指標について、細かいところで恐縮なんですけど、5の指標Iの平和寄附金収入の確保のところ、655から636に今年度はされていて、実績値は619となって、そこから増えているというご説明だと思います。また、来館されたときに呼びかけるというような、ご説明だと、先ほどのお話の中で理解させていただいたんですが、中期計画の詳細の方を見ると、指標のVIで入館者数が書かれていたかと思うんですが、昨年度の実績値が22,483で、今年度の見込みとして28,600で、割合しては120%以上あるかと思うんですが、この寄附金収入の見込み、微増の根拠みたいなもの、もしありましたら教えていただきたいんですけども。

【教育委員会事務局】 来館者数は、おっしゃるように120%ぐらいということで書かせていただいておりますけれども、イベント自体はやはり実施する回数とかも限られますし、そのイベント自体の参加率も密を避けるという意味で従来より非常に間をとって、人数も少なく制限してやっているというような状況がございますので、そういう意味で言うと、実際の企画事業に参加される方の人数はそんなには増やすことは難しいのかなと考えてお

りますので、それで行くとやはり寄附金収入も同じようなことになるかと思えます。

【水上委員】 承知しました。ありがとうございます。

【野村委員長】 では、野村の方から少し伺います。

今の寄附金収入のところですけども、企画事業とかを見てもらって寄附を頂くという形かと思うんですけども、企画事業って講演会だったりとか映画を放映したりとか、そういうものかなと理解しているんですけども、令和2年度は、例えば夏から秋ぐらいかと思えますけど、何回かはできたんでしょうか。それとも全くできていないのか、実情はどうでしょうか。

【教育委員会事務局】 平和祈念事業としては、年間4回の企画をした中で、1回は中止をしましたがけれども、残りはできております。また、特別展を4回やったりとか、あと館内ではないですけども、出かけていくような出前展示、そんな形でも新たな方策を探って、そういうのを来年実施したりとか、そういう幾つかの取組はできているという状況です。

【野村委員長】 そうすると、館内でやるものが7、8回と、外に出かけるのも3、4回ぐらい、令和2年度もされたということになるんですかね。

【教育委員会事務局】 そうですね。

【野村委員長】 これ、例年に比べると大分少ないということになるんですか。コロナ前とかと比べると。私、ほとんどできてないのかなと思っていたので。

【教育委員会事務局】 大体半分ぐらいはできているのかなという。

【野村委員長】 なるほど。そうすると、目標値も令和4年度から倍ぐらいになっているというような、令和2年度と比べるとというようなイメージですかね。

【教育委員会事務局】 はい、希望も込めてとしている。

【野村委員長】 分かりました。ありがとうございます。

ほかには皆様、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、質疑応答については以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

【野村委員長】 そうしましたら、まず中期目標の変更について答申をとということになりますけれども、何かご意見とかありますでしょうか。

特に意見なしでよろしいでしょうか。

【市口委員】　　そうですね、コロナの影響ということになってしまうので、減るのは仕方がないというところかと思いますね。

【野村委員長】　　あと、計画の方も一応意見があれば付すということになるかと思いますが、計画の変更ですね。いずれも特に意見なしでよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

【野村委員長】　　では、そういう形をお願いいたします。

【小山法人担当課長】　　分かりました。答申の方は、意見がなかったらない旨を答申として出さないといけませんので、また文言は委員長とも調整させていただいて、委員の皆様方にはメール等でお送りさせていただきます。

【野村委員長】　　お願いします。